

議事録

会議名 第2回 矢板市公共施設再配置計画策定委員会			
日時	平成 29 年 6 月 30 日(金) 15:00～17:00	場所	矢板市役所 3 階 第1委員会室
出席者	矢板市：齋藤市長、三堂地総務課長、谷中、船山、兼崎 策定委員会：陣内雄次、中村久信、佐貫薫、佐藤勤、島田次秀、東泉清寿、和気文輝、石川幸夫、渡邊清二、宮崎博、海瀬元之、大島政一、中嶋加代子、笹沼卓夫、三好良重、中村恵子 BHC：齋藤、松田、渡部		
議題	公共施設再配置計画骨子について 施設ごとの再配置計画について その他	資料	市営住宅管理戸数 公共施設再配置計画構成案 具体的な取り組みに向けて 施設配置図(案)
議事次第・資料		協議内容	
1. 委員長あいさつ	数年前、旧東ドイツで減築が始まったということで当時は斬新な方法であった。旧西ドイツに人が流れていき、人口が減る中で公共施設をどうしようかという中でとられた方法であった。今回の再配置計画についても、いろんなアイデアを皆さんで出しながら今後の矢板市について考えていくことが重要だと考える。		
2. 公共施設再配置計画骨子について	<p> ■矢板市再配置計画構成案について 事務局：構成案の一部修正を行っている。まず計画期間について、30年間で10年毎に短期、中期、長期に分け計画を進め、その時の社会情勢等に応じ計画の見直しを行うとしていたが、計画をより確実なものにするため、更に 5 年ごとに計画の進捗状況を確認するためのロードマップを加えた。 また、計画策定後の推進体制について、各所管部署が個別計画の策定、計画実行を進め、各所属とは別に、計画を総合的にマネジメントする部署を設けることをより明確に記載した。 </p> <p> ■縮減面積について 事務局：縮減面積について、当初、インフラ施設を除くすべての公共施設約 147,000 m²から延床面積で 40%縮減するという認識であったが、実際には、取り壊し等の方針が明確に決定している施設もあり、それら施設を除いた部分を検討の対象として進めていくので了承したい。 BHC：今回の 40%という数字は、30 年間で今後公共施設の整備にかかる投資と、整備に使用できるお金を均衡するにはどうすればいいのかシミュレーションした結果出された数字で、それを縮減目標としている。 事務局：40%の施設削減は、かなり高い目標で、その実現はかなり難しい。BHC は、いくつも計画策定のサポートしており、色々な情報も持っていると思うが、参考となる事例等はないか。 BHC：以前計画を手掛けた南砺市は、削減率 50%と云う高い削減目標を掲げ、計画策定を実施した。しかし、すべての施設について具体的な方針を決定することはできなかった。計画を短期、中期、長期の 3 期に分け見直しを行い、最初の計画策定時に具体的方針を示せなかった施設については、見直しの段階で際検討を行い、順次方針を定めていき、最終的に全施設について方針を決定することとした。 30 年間という期間の中では、社会情勢等も変わっていくため、それに対応する形で見直しも進める。情勢の変化によっては、50%の削減目標も変わってくる。 </p>		

<p>会議名</p> <p>第2回 矢板市公共施設再配置計画策定委員会</p>	
	<p>また、最終的に 50%の削減目標が達成できない時のため、基金等の積立てを行い対応することになっている。</p>
<p>3. 施設ごとの再配置計画について</p>	<p>■施設毎の方針について</p> <p>事務局：今回、30年後の施設ごとの方針について、各所管課にアンケートを実施した調査結果について配布した。これによると既に廃止等の方針が決まっている施設が、中市営住宅等公営住宅を中心に 10%程度となる。今後、40%の削減を進めるにあたっては、全施設均等に検討を行うよりは、面積の大きい施設を重点的に検討を進める方が効率的であり、そうなると全体の 7 割近くを占める学校・公営住宅を中心に検討していくことになってくる。学校については地域の拠点的な位置づけにもなっており、住宅についても、建築後、一定期間用途廃止ができない等問題があり難しい。</p> <p>今回配布した調査結果については、施設ごとに廃止、継続、検討の区分けがなされており、廃止と検討施設をすべて含めると今後、この調査結果を参考にしながら40%の削減を進めていくこととなる。</p> <p>■縮減目標について</p> <p>BHC：先ほどの 30 年間という計画期間について補足すると、いつ 40%減らしてもいいということではなく、毎年同じ数量の削減を行っていけば、財源が均衡するというシミュレーションである。そこで、30 年間で短期、中期、長期の3つのスパンに区切りそれぞれの期間で均等に減らしていくのはどうかというご提案をさせて頂いている。</p> <p>また、新しい施設は壊せない等の制約があるため、30 年先まで方向性を示して、まず短期の 10 年間で具体的に決めていき目標を達成していこうという方法も提案させて頂いている。</p> <p>委員：30 年で 40%削減ではあまりにも時間がかかりすぎているのではないかと。私の感覚としては、10 年間で 13%の削減では手遅れになるのではないかと。もっとスピードを上げて、もっと厳しくしなくては今回の計画の意味はないのではないかと。</p> <p>事務局：おっしゃる通りで、30 年先で 40%の削減では遅いと思われる。我々としては提示した 10.5%はあくまで最低限と考えている。さらに踏み込んで廃止等をしたといった考えではない。</p> <p>委員：3 期の縮減割合を均等化するのではなく、短期で多めに削減して、後を少なくする必要があるのではないかと。</p> <p>事務局：我々としても短期でどれだけ削減できるかが勝負だと考えている。</p> <p>委員：なぜ 30 年間も期間が必要なのか。</p> <p>事務局：耐用年数などの期間の問題や住民感情の問題、解体費の問題などがあり、一筋縄ではいかない状況である。住民への説明等、時間をかけて考え方を共有していく必要がある。また、まとめて解体などをしてしまうと、逆に解体等の工事費がかさみ財政に負担がかかることを見込まれる。</p> <p>■施設配置図について</p> <p>BHC：施設の検討にあたり施設配置図を提示させて頂いた、縦軸と横軸で、どの地域にどの分類の施設があるか、四角のコマの大きさで施設の規模を、コマの色で老朽化の程度を表しており、全体の施設の状況を見える化でき、計画策定の基礎資料として活用されたい。</p> <p>■評価の仕方について</p> <p>BHC：施設の方針を決めるにあたって、いったん機械的にすべての施設について点数付けを行い、耐用年数の経過する時期に、廃止等検討すべき施設がどの程度あるのか</p>

会議名	
第2回 矢板市公共施設再配置計画策定委員会	
	<p>を取りまとめ、まずたたき台として施設ごとに方向性について見える化を行う。そのうえで、委員の皆さんや矢板市の皆さんの意見を踏まえて検討していただくことを想定している。</p> <p>委員：耐用年数が残っているからあとでいいということではなく、何処をどうするかをまず決めないと決まらないのではないかと。機械的に判断するのであれば、我々はいらないのではないかと。</p> <p>BHC：データだけで判断するというのではなく、全体的にどういう傾向なのかを見るために、機械的な点数付けすることを考えている。具体的には、施設ごとに必要度と対応時期の2軸で判断する方法、ハード(建物)とソフト(サービス)の2軸で判断する方法を考えている。その結果、例えばハードの部分で点数が悪いが、ソフトの部分で点数が良いといった施設があった場合、建物は廃止し、他の状態の良い施設と統合を図る等、検討材料の一つとして考えており、これらデータを基に皆さんから意見を賜り、具体的な検討を進めたいと考えている。</p> <p>委員長：今回はこの評価の方法についてご意見を頂ければというところである。</p> <p>委員：「必要度と対応時期」と「ソフトとハード」の2つの評価方法で評価項目が重複する箇所があると見づらくなると思われるが、その部分はどうなのか。</p> <p>BHC：2つの評価方法を並行して使用するという風に説明したが、最初の想定として、必要度と対応時期を優先して評価することを考えていた。しかしそれでは、判断材料として乏しい場合もある。そのため、今後の結果いかんでは、ソフトとハードの評価を重視し、必要度と対応時期についてはエッセンスとして使用することも考えている。</p> <p>委員：承知した。評価項目、方法についてはよく検討して行って頂きたい。</p>
4. その他	<p>■現地調査について</p> <p>事務局：施設の検討にあたって、机上の議論だけでは実感が湧かないため、現地調査を実施したいと考えており、平成29年7月15日(土)午前9時からの実施する。視察する施設としては、面積の大きい学校や住宅、評価の点数が低い施設から何施設かピックアップしていきたいと考えている。</p> <p>■シンポジウムについて</p> <p>事務局：再配置計画について広く市民にも理解してもらうため、シンポジウムを実施したいと考えている。当初8月を予定していたが、日程的に難しいため9月に開催したい。その際には、コーディネーターとして陣内委員長に、パネリストとして皆様の中から4名ほど協力いただきたいと考えている。</p> <p>委員：先進自治体にて実際に行われている方を招いてはいいかがか。</p> <p>BHC：事務局様と検討させて頂く。</p>